

令和7年度局区X方針 取組状況の報告 (令和7年8月~12月まで)

令和8年1月30日 第4回X会議

目次

1. R7X方針の概要

(1)R7概要・手順ロードマップ

・(参考)課題設定プロセス(勉強会)

2. 各局区による自己点検状況

(1)全体状況

(2)予定より取組が遅れている課題一覧

3. 市政変革推進室による点検結果(BCレベル)

(1)全体状況(変革の取組の5段階での仕分け)

(2)B・Cレベルの取組内容にかかる問題点(事例)

(3)変革の取組が停滞しているパターン

4. 令和7年度の振り返りと今後の進め方

5. 再確認ポイント

○参考資料

・課題領域ABCの定義

・各局区のB・Cレベルの課題一覧(変革の取組段階の仕分け)

1. R7年度局区X方針の概要①

①令和7年度局区X方針の概要

「これまで(現状)」から、何を変革する(トランスフォームする)のか、
そのトランスフォームした姿(るべき姿)を実現するために、
今年度の変革課題を明確にして、課題解決の取組みを定めたものが『X方針』

～各局区長等が、経営者目線で自律的な改革の方針を定め、組織内外に発信～



局区長による変革の推進力向上 や 局区の経営意識の向上を図る

局区長のリーダーシップの下、
変革の方針を策定・公開



【X方針の段階】

①自己点検

- ・局区長のリーダーシップの発揮
- ・新ビジョンを踏まえ、
特に変革が必要な課題(変革課題)の洗い出し
- ・幹部職員の参画

②変革課題・目標等の設定

- ・局区X方針の公表
- ・市民への丁寧な発信
- ・局区内職員との意識共有

③X会議(進捗の公開)

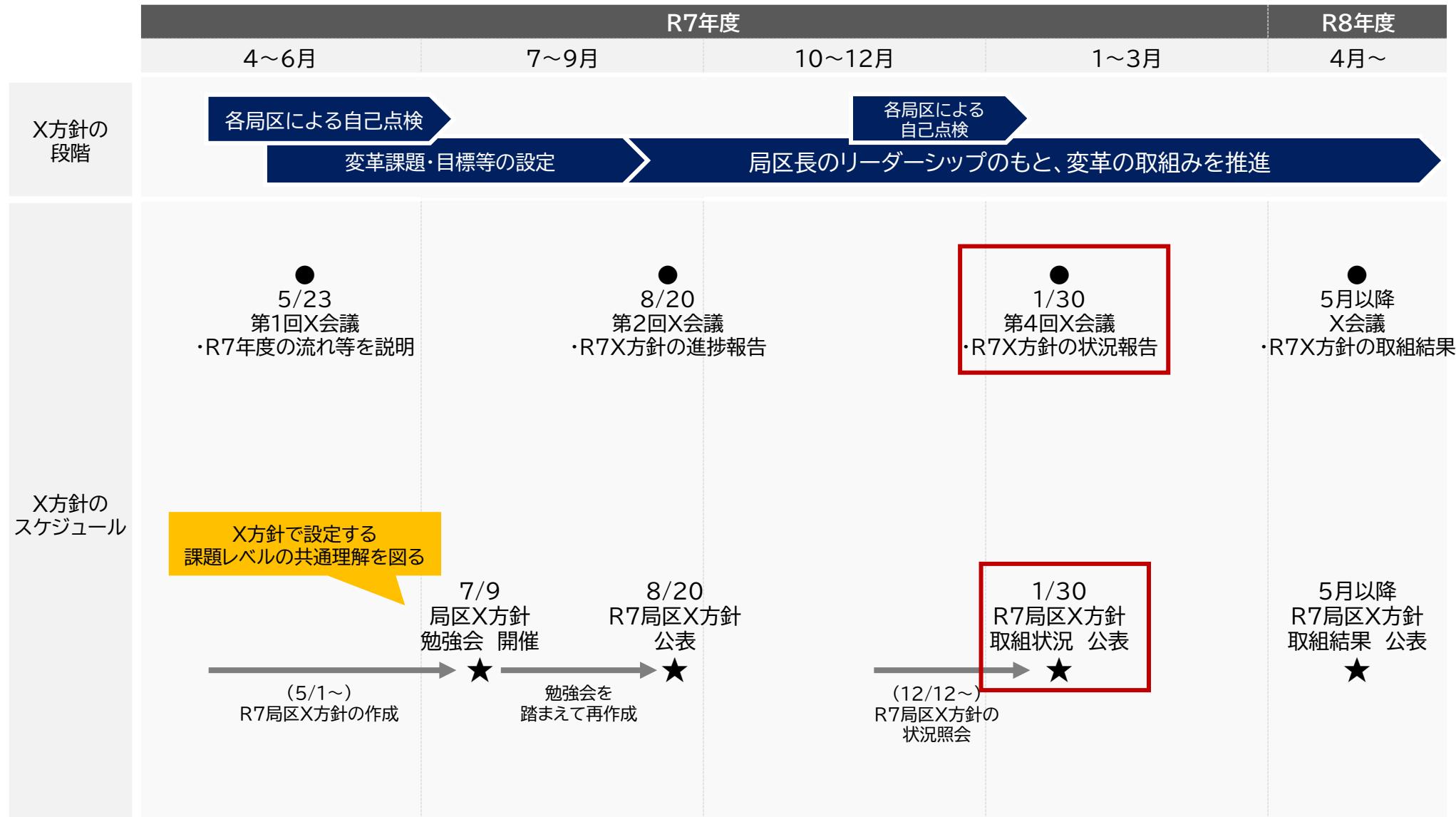
- ・見直しが困難な課題を可視化
- ・データ等を用いて客観的に分析

【R7局区X方針のポイント(特徴)】

- ① 中長期の市政を見据えて、「今掘り下げるべき課題」かつ「今から着手していくもの」を**局区長自身の言葉で設定**する
- ② **市長と共有している変革事項**も課題として設定する
- ③ R6からの経営分析や政策連携団体見直し、公マネ、プラチナPJ等との連動させる
- ④ 各課題の重要度を「**インパクト(政策効果)と緊急度**」の2軸で明確に設定する
- ⑤ 課題解決に向けた取組みについて、年度単位ではなく4半期間隔でスケジュールを設定
- ⑥ 既に**ゴールやアクションが明らかになっている日常業務**や内容が**理念的・抽象的**すぎる課題(永遠の課題も含む)は**設定しない**

1. R7年度局区X方針の概要②

②令和7年度のロードマップ

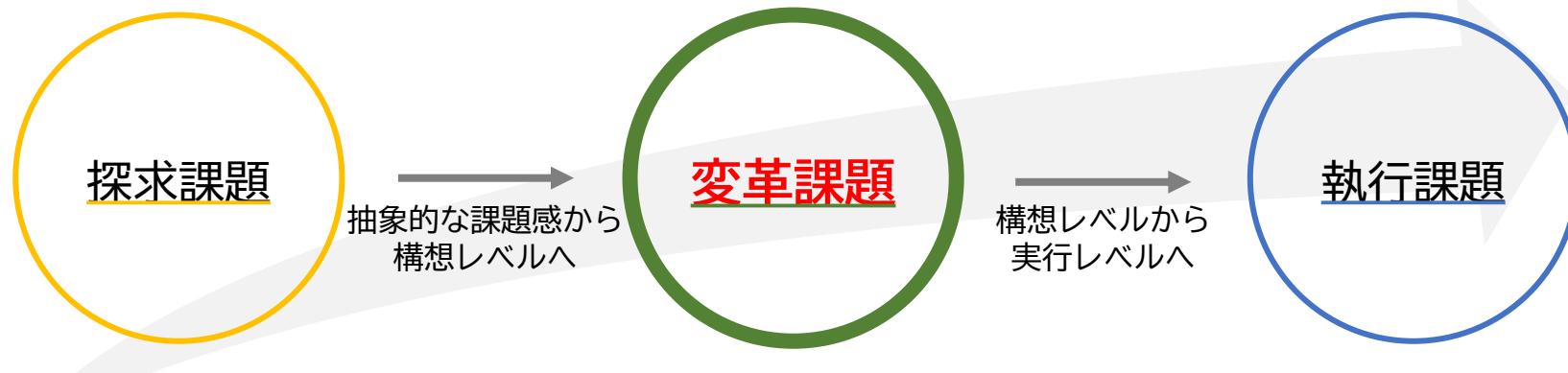


3分類の課題 (定義)

行政が取り組む課題には「探求課題」「変革課題」「執行課題」の3種類がある。

・・これらは連続的かつ相互補完的な関係性を持つ。「課題の進化プロセス」

X方針のB・Cレベルは「変革課題」「探求課題」を取り上げるもの。



部局の枠を超えない、掘り下げるべき課題の見定めや解決策が見出しにくい課題。

組織横断的な検討や外部（民間等）の協力を必須とするもの。

→ 全庁的なプロジェクトや、新たな検討体制（タスクフォースなど）を立ち上げて取り組む必要がある。

現状のやり方ではうまくいかない状態に対し、転換やトランسفォームを目指す課題。

担当部局が主となって解いていくことが可能なものの。

→ 「これから」は市民に何を提供するのか、「これまでからの転換」を課題に定め、解決の方向性や打ち手を具体化していくもの。

解決の方向性や具体的な内容が確定し、予算に基づく実行段階にある課題。

または、既存プロセスを前提に日々の「やり切る」改善活動。

→ すでに日常業務に落とし込まれているものは、X方針に記載すべきでない。

2. 各局区による自己点検状況①

■各局区において、A・B・Cレベルの各課題に対する取組状況を確認・点検

- ① 各課題の取組項目ごとに、第3四半期(R7.12月末)までの取組状況を「X方針」に追記
- ② 予定の取組内容(スケジュール含む)と実際の状況を照らし合わせ、必要に応じて修正・変更

- ・ 第3四半期までの取組状況を各局区で自己点検した結果、予定の取組を実施している課題が、189件(全体の95%)、予定より取組が遅れている課題が、13件(全体の5%)となっている。
- ・ また、今回の確認により、X方針の取組内容等を修正・変更(軽微なものを含む)を行った課題は18件あった。

<第3四半期までの取組状況(全体)>

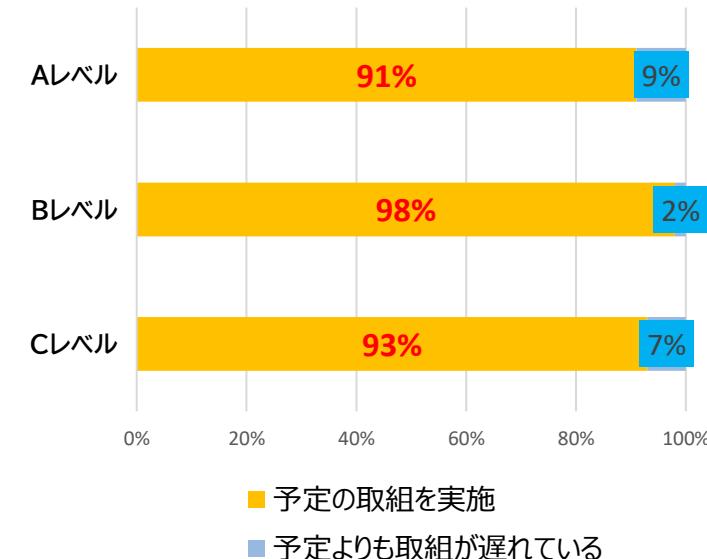
取組の進捗状況	Aレベル	Bレベル	Cレベル	計
予定の取組をすべて完了	0	1	0	1
予定の取組を実施	50	97	38	185
予定よりも取組が遅れている (予定変更したものも含む)	6	3	4	13
計	56	101	42	199

<取組内容等の修正状況(全体)>

課題領域	課題件数	うち変更・修正件数
Aレベル	56	5
Bレベル	101	9
Cレベル	42	4
計	199	18

8頁に該当
課題を記載

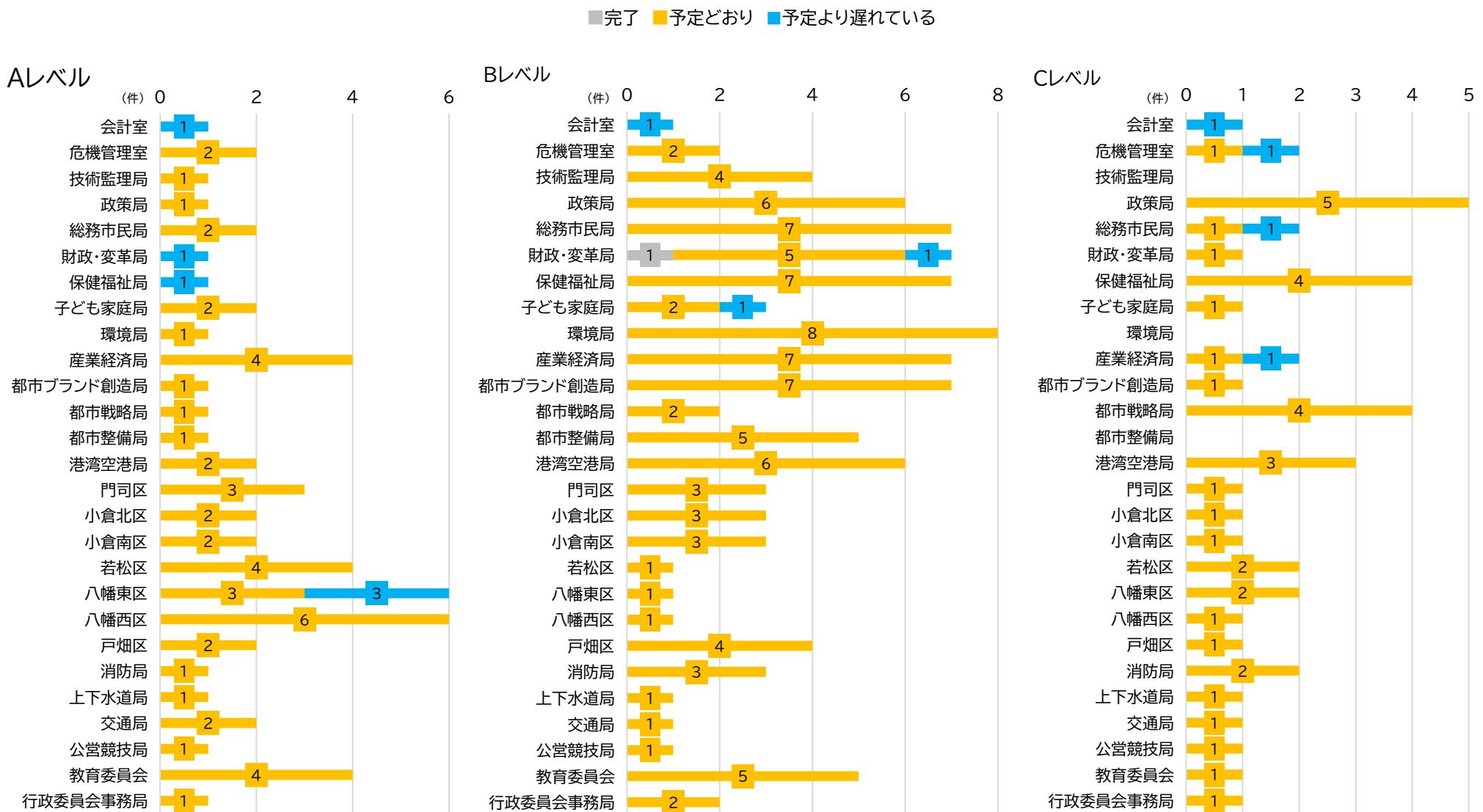
<課題レベル別 取組状況>



(参考)各局区等X方針の状況①

各局区X方針A・B・Cレベルの取組の実行状況(各局区の自己点検)

・各局区(15局7区)の自己点検の結果、B・Cレベルにおいて「完了」とした課題1件、「予定よりも取組が遅れている」とした課題は7件あった。



2. 各局区による自己点検状況②

■予定よりも取組が遅れている課題一覧(1/2)

	局区名	課題・課題に対する取組		今後の取組内容・スケジュールの変更状況	変革段階
1	会計室	A	■会計事務の簡素化・効率化 ①財務会計システムの機能アップ ②会計関連ルール、事務処理マニュアルの見直し ③公共料金の払込書廃止(クレジットカード化) ④文具類等の物品購入事務の簡素化	文具類等の物品購入事務の簡素化に係る <u>予算要求のタイミングをR8当初予算から、R9当初予算へ変更した。</u>	—
2	会計室	B	■市民企業等の利便性向上 ①デジタル収納の推進 ②電子請求の導入 ③債権者登録と業者登録の統合・電子化	電子請求の実現について、現行の手法では十分な費用対効果が見込めないと判断し、 <u>R8当初予算への計上を見送り</u> 、導入時期をR8年度からR9年度に修正した。	3
3	会計室	C	■将来に向けた適正かつ効率的な会計事務の確保 ①会計事務へのAI活用 ②調達から請求支払いまでの一連の事務処理の実現	① 7月から「AI会計室」を本番稼働済、回答精度の向上と利活用促進を実施中。審査業務への適用可能性を検証するため、AIを活用した会計事務(審査)の簡素化に向けた実証を開始。 ② <u>財務会計システム基盤更新(クラウド移行)やデジタル収納の推進など、優先度の高い業務を先行したため、現時点で未着手となった。</u> 他都市等取組の情報収集を行う予定。	2
4	危機管理室	C	■避難行動要支援者に対する避難支援の仕組みづくり ①モデル調査の検証を踏まえた改善策の検討 ②全市展開に向けた課題の整理、準備・調整	実証を行う予定であったが、 <u>避難レベル3の発令がなかったため、検証実績が得られなかった</u> 。これを踏まえ、災害時を想定した条件を付与する実証的な訓練を実施し、その結果について検証・分析を行うなど予定している。	1
5	総務市民局	C	■生涯学習センターのあり方の検討 ①検討案の選定、各案の分析及び詳細検討 ②先進事例収集、先進地視察	生涯学習センターのあり方検討についての「たたき台」となる素案を作成し、本案を基に、10月より、センター館長会議において協議を開始。 <u>金和8年度予算に計上し、他都市視察を実施する見込み。</u>	2
6	財政・変革局	A	■来庁者が好感を持ち、職員も安心して働ける税務窓口の実現 ①オンラインアンケートの実施とフィードバック ②接遇マニュアルの活用による職員の個別点検・改善とカスハラ対応の組織的体制づくり	② <u>接遇マニュアルは内容の調整等に時間を要しており、作成が予定より遅れている。</u>	—
7	財政・変革局	B	■税収構造の見える化、税収増加策の検討 ①税務データを抽出・分析する手法の確立 ②事業の税収への影響の検証、税収増加につながる政策立案へ寄与	企業誘致事例など、検証の対象事例を選定中。また、事業内容やデータの保存状態等に応じて税収効果の測定・検証の仕方にも工夫を要するため、適切な方法について研究中。 具体的な作業以前の基礎的な検討に時間を要しており、予定からは遅れている。	2

2. 各局区による自己点検状況②

■予定よりも取組が遅れている課題一覧(2/2)

	局区名	課題・課題に対する取組		今後の取組内容・スケジュールの変更状況	変革段階
8	保健福祉局	A	■「スマらく区役所」推進による区役所窓口等の改革と事務集約化 ①局内プロジェクトチームによる検討 ②国保システム標準化に併せた業務集約化・組織体制等の抜本的見直し ③介護手続きオンライン化、バックヤード業務集約 ④保健福祉課バックヤード業務集約、外部委託、他都市調査	③オンライン運用の体制構築や環境整備等に課題が生じたため、R7.10～12月に予定していた「運用開始」を、「運用方法等の検討」に変更した。 ④R8.1～3月に予定していた「委託に向けた業務フローや仕様書等の作成」を、「外部委託化等の導入に向けた再検討」、「業務実施体制等の再検討」に変更した。	一
9	子ども家庭局	B	■児童館内放課後児童クラブの学校敷地移設の推進 ①移転に係る意向調査 ②小学校状況調査結果を踏また個別計画策定 ③運営団体との移設に向けた協議 ④移転後の児童館の用途廃止に係る運営団体との協議 ⑤子どもの居場所確保に係る関係部局協議	令和7年8月、放課後児童クラブ運営委員会及び保護者を対象に、放課後児童クラブ移転に関する意向調査を実施した。 クラブの移転及びクラブ移転後の児童館のあり方について、 <u>利用者や地域の方々の声を十分に聞きながら検討を進めている</u> ところである。	2
10	産業経済局	C	■渡船事業(若戸航路)の経営改善	航路認可できるような代船の候補が想定以上に乏しく、条件調整や予算化協議等に時間を要していることから、少し遅れている。	1
11	八幡東区役所	A	■内部事務の効率化・見直し ①内部事務の電子化 ②会議の効率化	②書類削減によるスペースの確保が遅れているため、4半期ごとの取組内容を進捗に合わせて修正(後ろ倒し)した。	一
12	八幡東区役所	A	■地域の活力を高める情報発信 ①機動的な情報発信の構築 ②市民に刺さる情報発信 ③八幡東倶楽部のさらなる充実、活性化	9月から情報発信を行う計画であったが、取材先等の都合がずれ込んだため。4半期ごとの取組内容を進捗に合わせて修正(後ろ倒し)した。	一
13	八幡東区役所	A	■証明書コンビニ交付率向上等のPR強化 ①キオスク端末の操作方法案内動画の政策、多言語化、情報発信 ②サービスの利用促進に係る効率・効果的PR、多言語化等	① 多言語版原案となる日本語版動画は7月予定だった制作、調整等に時間を要し、R7.12月に先行発信。多言語版の発信等は第4半期に実施予定。 ② 利用者数が多く、利便性向上に資するマイナンバーカードによる本市独自の新規サービスを中心に4月から断続的にSNS・HP・市政だより区版でPR実施。外国人の円滑なサービス利用に資する取組は、第4四半期に、外国人用サービスガイドを完成させ、情報発信予定。	一

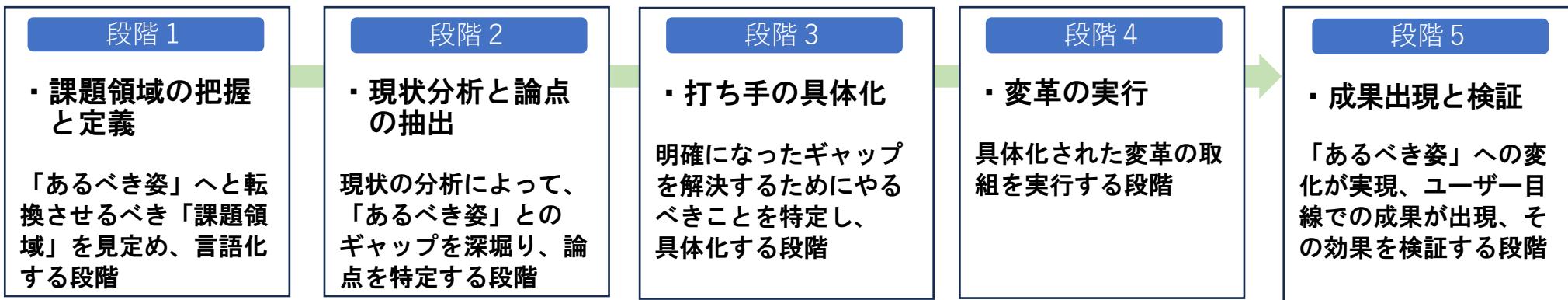
- ・主な要因は、相手側との調整や予算措置の状況判断、検討段階で新たに精査すべき問題等が判明したこと等による。
- ・各局区において、取組内容・スケジュールなどを適宜軌道修正している。

3. 市政変革推進室による点検結果①

■ 市政変革推進室において、B・Cレベルの各課題にかかる取組の実行状況を確認・点検

- 各局区等の課題B・Cレベルの取組状況をより可視化するため、取組の実行状況について確認し、変革の取組段階(5段階)のうち、どの段階まで達しているか仕分けした。

変革の取組ステップ(5段階)



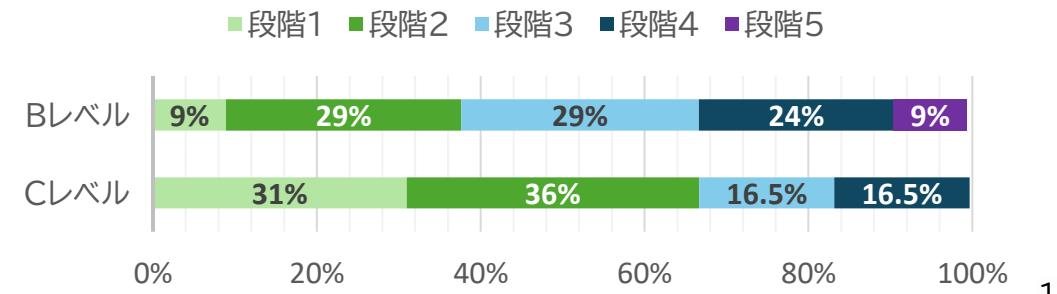
B・Cレベルの課題143件にかかる取組の実行状況を上記の段階1～5で仕分け

- Bレベルでは、「段階3」「段階4」に進んでいるものが54件(53%)、一方で「段階1」にとどまっているものが9件(9%)あった。
- Cレベルでは、「段階1」「段階2」にあるものが28件(67%)、「段階3」「段階4」の14件(33%)よりも割合が高くなっている。

<BCレベルと仕分け結果(全体)>

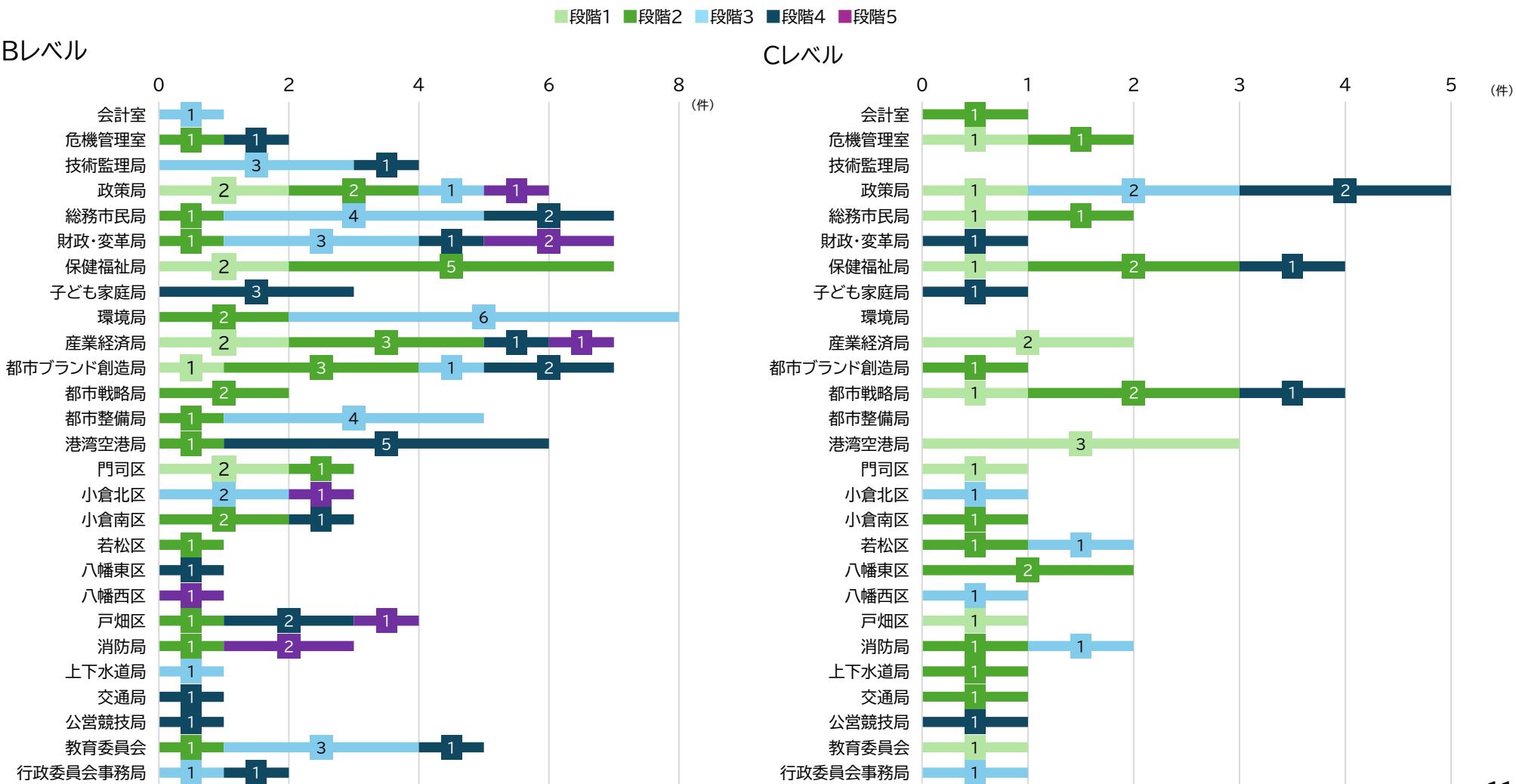
	段階1	段階2	段階3	段階4	段階5	計
Bレベル	9	29	30	24	9	101
Cレベル	13	15	7	7	—	42
計	19	44	37	31	9	143

< B・Cレベルの各段階の割合(全体) >



各局区X方針B・Cレベルの取組の実行状況(変革5段階による仕分け)

- 各局区のB・Cレベルについて、事務局(市政変革推進室)で変革の取組として現在どの段階にあるか整理した結果、Bレベルでは、変革の実行段階にあるものなどを設定するため、すでに段階4～5まで進んでいる課題が一定数あったが、Cレベルでは、今から着手する課題となるため、段階1～3のものが多く、段階5は0であった。



3. 市政変革推進室による点検結果②

1. B・Cレベルの取組内容にかかる問題点(事例)

変革の段階	取組内容における問題点	該当するB・Cレベルの課題名(例)
段階1 ・課題領域の把握と定義	①課題設定に手こずっている (焦点が定まっていない) ②取組のスピード感がない (課題の特定で足踏みしている)	①避難行動要支援者に対する避難支援の仕組みづくり(危機管理室)C ①今後のまちづくりの長期的な最終目標に向かっていく小目標の設定(門司区役所)C ①広域連携の推進(政策局)B ①地域共生社会の実現に向けた新たなつながりづくりの検討(保健福祉局)C ②中央卸売市場の再整備(産業経済局)B
段階2 ・現状分析と論点の抽出	①課題の切り口が限定的になっている	①年長者いこいの家(公共施設マネジメント)(保健福祉局)B
段階3 ・打ち手の具体化	①設定した課題に対し、取組が小さい ②重要な執行課題だが、取組に変革要素がない	①持続可能なインフラマネジメント(技術監理局)B ①道路橋等の効率的・効果的な維持管理(都市整備局)B ②小倉南区内の消防体制の再整備(消防局)C
段階4 ・変革の実行	①設定した課題に対し、課題解決に結び付く取組内容(最適解)になっていない。	①より便利で、より安心なネットワーク環境の提供(政策局)C ①北九州モノレールの安定的な経営基盤の確保(都市戦略局)C ①区政強化のための新たなスキームの検討(総務市民局)B ①港の稼ぐ力の強化(港湾空港局)B
段階5 ・成果出現と検証	①課題解決に結び付く取組みを実行している。 しかし、課題自体が変革課題として相応しいものであったか?	①市政変革と連動した令和8年度予算編成方針(財政・変革局)B ①消防業務のDXの推進(消防局)B

局区長自らが「変革に対する意識・行動の罠」に陥っていないか、適宜振り返り、リーダーシップを真に発揮していくことが必要。

- 抽象的な課題で思考が停止していないか?(具体的に落とし込めていない、深掘りできていない)
- 以前の常識のまま、課題解決しようとしていないか?(環境変化に対する不十分な理解)
- 「予算がない」「時間がない」を考えないための免罪符にしていないか?(既存の予算・組織・任期等に引きづられている)
- 挑戦した職員よりも、何もしない職員を評価していないか?(職員のインセンティブ付けが弱い)
- 局区長自身の「変えたい」という熱量は行動で部下に示せているか?(リーダーシップたる姿を部下が体感できていない)

3. 市政変革推進室による点検結果③

2. 1以外に、B・Cレベルの取組が停滞しているパターン

- (1)「全体のビジョンや方向性の決め方自体が明確になっていないため、課題の掘り下げが難しい」
- (2)「関係者が多数存在して複雑なため、解決の方向性や最適解が見出せない」
- (3)「変革しようとしているが、合意形成、利害の調整に時間がかかっている」



- ・(1)～(3)では、担当局でも、本質的課題を認識し、変革(転換)へのチャレンジを試みているものの、個々の状況等から、次の展開や改革の方向性が見えなくなっている事案ではないか。
- ・特に(1)(2)の事案では、所管局で抱え込んでしまうことで停滞している状況とも言える。これらを開拓するためには、**個別に、状況を踏まえて柔軟かつ幅広な検討が必要**であり複数局区を所管する担当副市長や市長と、特定したボトルネックを共有し、包括的な視点で協議するなど、方向性の検討や調整に積極的に関与してもらう必要があるのではないか。

3. その他

取組み内容等が不明確、もっと詳細に記載するべきなど、変革の段階に関係なく、局区×方針の内容又は記述ぶりで気を付けるべき案件が散見された。

4. 令和7年度の振り返りと今後の進め方

今回のX方針の状況報告を踏まえた、全体の振り返り(まとめ)

- 局区X方針も2年目を迎える、考え方や具体的に記載するルール・姿勢などは一定程度浸透してきている。
- 一方で、X方針は変革課題を設定すべきであることは、勉強会を踏まえて改めて共有したにもかかわらず、ゴールやアクションが明らかになっている「日常業務」をB・Cレベルの課題で設定していたり、理念的な内容のまま課題として設定しているものも、いまだ見られた。
- また、課題自体は、変革的課題を設定しているが、その取組内容が日常業務(本来業務)となっているなど、課題に対し、取組内容が小さくなっているものもある。
→こうした問題は、各局区の変革に対する意識等に由来する→「罠」と思われるが、その結果①B・Cレベルの課題数が多くなっている局区があったり、②変革を前進させることが容易でないと想定される課題でも、状況確認では「予定どおり進んでいる」と回答するケースもあった。
- 真に必要な変革課題への着手と具体的な変革の実行を促すためには、定期的に、X方針全体で課題の設定状況や取組状況を横断的な視点で確認し、停滞の有無等を明らかにしていく必要がある。
- また、個々の状況から停滞している課題は、所管局が抱え込まずに、担当副市長や市長に、ボトルネックを共有し、包括的な視点で協議する等、方向性の検討や調整等に積極的に関与してもらうことが必要である。

R8年度に向けて

【X方針全般の対応として】

①各局X方針で設定する課題の精選と優先順位づけ

通常業務の範囲内(※市政上の重要な課題・長年の懸案であっても変革要素がない場合も含む)で取り組む執行課題は、B・Cレベルの変革課題とは区別して含めないようにする。

②変革の取組状況に関する定期的な全庁共有(X会議の活用)

【X方針の課題への個別対応として】

③停滞している課題のボトルネック(原因)を特定し、新たな「課題の道程」を整理していくための「進め方」の設計

5.再確認ポイント

【変革を阻む「罠」に陥らないための5つの問い合わせ】

- 問い合わせ① 抽象的な課題で思考が停止していないか？
- 問い合わせ② 以前の常識のまま、課題解決しようとしていないか？
- 問い合わせ③ 「予算がない」「時間がない」を考えないための免罪符にしているか？
- 問い合わせ④ 挑戦した職員よりも、何もしない職員を評価していないか？
- 問い合わせ⑤ 局区長自身の「変えたい」という熱量は、行動で部下に示せているか？

求める「変革に対する意識・行動」

- ★ 執行課題に逃げ込まず、本質的な変革課題を直視し、変革のゴールまで、やり遂げることを目指す。
- ★ 変革の期限(時間軸やマイルストーン)を明確にし、市長・副市長、局内で共有して進める。
- ★ 局区長自らが、組織内において変革へのチャレンジを促す役割を果たす

各局区長自身が、変革を阻む「罠」に陥らずにいること
=『求める「変革に対する意識・行動」ができている状態』が実現

參考資料

課題設定プロセスと3つの課題領域（ABCレベル）

- 課題設定には、以下のプロセスで検討していくことが求められる。

STEP1 まず、内外の環境変化等を踏まえ、『今ある姿（現状）』から『るべき姿』へと変化（トランスマーチューション）させる必要がある『課題領域』を把握

STEP2 『るべき姿』を明確にして、現状とのギャップを分析（深掘り）

STEP3 現状とのギャップ解決のためにやるべきことを特定・具体化

※外部環境（例）：市場の変化、ユーザーの多様化、技術革新など
内部環境（例）：制度の陳腐化、人材不足、戦略の転換など

- 課題領域は、以下A・B・Cの3つのレベルに分けられる。

課題領域	概要	具体例
Aレベル	行政サービスの現場改善にかかる課題	市民や市職員などのユーザー目線による現場改善
Bレベル	課題の掘り起こしが済み、変革の実行段階にあるもの 課題の掘り起こしを更に進め、実行段階へ繋げていくもの	R6年度経営分析を踏まえた課題 局区X方針からの継続課題など
Cレベル	将来を見据えて今から着手しなければならない課題	外部環境の変化など、中長期的な予測から着手すべき課題

(参考)各局区X方針のB・Cレベルの課題一覧(変革5段階による仕分け) 1/6

No.	局区名	課題領域	課題名	段階
1	会計室	B	市民企業等の利便性向上	3
2		C	将来に向けた適正かつ効率的な会計事務の確保	2
3	危機管理室	B	巨大地震発生時における職員配置体制の整備	2
4			市職員の防災対応能力の向上	4
5		C	新たな担い手の育成等による地域防力の向上	2
6			避難行動要支援者に対する避難支援の仕組みづくり	1
7	技術監理局	B	働き方改革・生産性向上に実践的に取り組む地元建設業者の拡大	3
8			持続可能なインフラマネジメント	3
9			契約事務のDX推進	3
10			公共工事等を担う技術職員の人材確保・育成に寄与する、若い世代が成長を実感できる環境づくり	4
11	政策局	B	広域連携の推進	1
12			海外でのプレゼンス向上及び外国人に選ばれるまちに向けた国際関連施策の実施	1
13			政策連携団体(アジア成長研究所)の在り方	2
14			政策連携団体(アジア女性交流・研究フォーラム)の在り方	2
15			政策連携団体(北九州国際交流協会)の在り方	3
16			「デジタルで快適・便利な幸せなまち」の実現	5
17		C	北九州市・新ビジョンの実現に向けた戦略的な政策展開	1
18			世界をリードするサステナブルシティの実現	3
19			女性のリアルな声に基づいたコンフォートなまちの実現	3
20			DXによる新しい行政へのアップデート	4
21			より便利で、より安心なネットワーク環境の提供	4
22			客引き行為への対策	2
23	総務市民局	B	地域団体・市民センターへの依頼事項の整理と負担軽減	3
24			地域団体(自治会等)の事務作業のDX推進	3
25			地域団体(自治会等)が外部の力を活用できる体制の構築	3
26			地域の拠点として多世代が利用しやすいサステナブルな市民センターに向けた環境整備	3

(参考)各局区X方針のB・Cレベルの課題一覧(変革5段階による仕分け) 2/6

No.	局区名	課題領域	課題名	段階
27	総務市民局	B	区政強化のための新たなスキームの検討	4
28			人材確保・育成	4
29		C	本庁舎の建て替え	1
30			生涯学習センターのあり方検討	2
31	財政・変革局	B	税収構造の見える化、税収増加策の検討	2
32			公共施設マネジメントの推進	3
33			市と政策連携団体の連携体制の確立	3
34			市税事務所改革	3
35			市民に分かりやすい広報・周知	4
36			市政変革と連動した令和8年度予算編成方針	5
37		C	未利用市有地等の売れる化・使える化	5
38			将来にわたる持続可能な財政の確立	4
39	保健福祉局	B	市民が安心して医療を受けられる政策医療体制の再構築	1
40			北九州市福祉事業団(政策連携団体)	1
41			人生100年時代に向けた長寿社会対策の強化と再編	2
42			認知症の早期発見と効果的な介護予防活動につなぐ仕組みづくり	2
43			データに基づく高齢者の地域生活支援の充実	2
44			障害のある人の社会での活躍を一層進めるための施策検討	2
45			年長者いこいの家(公共施設マネジメント)	2
46		C	地域共生社会の実現に向けた新たなつながりづくりの検討	1
47			障害の有無にかかわらない施策の実施に向けた「包摂的」な組織改革	2
48			食肉センターの老朽化対策と経営の見直しに関する検討	2
49			介護・医療・福祉人材が育ち、集まるまちづくり	4
50	子ども家庭局	B	保育現場の負担軽減等	4
51			放課後児童クラブを移設した児童館の用途廃止の検討	4
52			青少年施設のリニューアル及び拠点集約化	4

(参考)各局区X方針のB・Cレベルの課題一覧(変革5段階による仕分け) 3/6

No.	局区名	課題領域	課題名	段階
53	子ども家庭局 環境局	C	多様化する保育ニーズへの対応	4
54			(公財)北九州国際技術協力協会のあり方の検討	2
55			(公財)北九州市環境整備協会の安定的な体制の維持	2
56			魅力があり利用しやすい環境学習施設のあり方の検討	3
57			市民環境力の醸成に向けたエコライフステージやESD協議会のあり方の検討	3
58			世界をリードするサステナブルシティの実現に向けた環境施策のアップデート	3
59			排出事業者の意識改革による事業系ごみの減量・リサイクルの促進	3
60			持続可能な社会の実現に必要なごみ処理体制のあり方の検討及び周辺自治体との連携について	3
61			地域コミュニティの視点も踏まえたごみステーションのあり方の検討	3
62	産業経済局 都市ブランド創造局	B	中央卸売市場の再整備	1
63			漁港を活用したにぎわいの創出(脇田地区)	1
64			北九州学術研究都市と北九州産業学術推進機構の機能強化	2
65			北九州貨物鉄道施設保全(株)	2
66			(株)北九州輸入促進センター	2
67		C	雇用施策のあり方	4
68			農業用ため池(農業用としての役割を終えたため池の有効活用)	5
69			船事業(若戸渡船)の経営改善	1
70			北九州市立商工貿易会館	1
71		B	政策連携団体の見直し(芸術文化振興財団の体制強化)	1
72			博物館系施設の付加価値向上	2
73			ホール系施設の効果的な運用	2
74			スポーツによる「稼げるまち」の実現	2
75			政策連携団体の見直し(観光コンベンション協会、皿倉山登山鉄道)	3
76			交流人口の増加による「稼げるまち」の実現	4
77			観光コンベンション施設のあり方(ソフト)	4
78			C 施設のあり方(ハード)	2

(参考)各局区X方針のB・Cレベルの課題一覧(変革5段階による仕分け) 4/6

No.	局区名	課題領域	課題名	段階
79	都市戦略局	B	都市機能の更新とまちの魅力向上	2
80			利用者目線による公園の魅力向上	2
81		C	「到津の森公園」の更なる魅力向上に向けた運営体制の強化	1
82			将来にわたる公共交通の維持・確保	2
83			まちなか居住の推進とまちの魅力向上	2
84			北九州モノレールの安定的な経営基盤の確保	4
85	都市整備局	B	利用者目線による公園の魅力向上	2
86			持続可能な住宅セーフティネットの提供	3
87			今後の北九州市住宅供給公社の利活用	3
88			道路橋等の効率的・効果的な維持管理	3
89			雑草対策の構造改革(除草主体から防草への転換)	3
90	港湾空港局	B	門司港レトロ地区の未利用地を活用した賑わい空間の創出	2
91			北九州埠頭株式会社による港湾管理に係るサービスの向上	4
92			港の稼ぐ力の強化	4
93			洋上風力浮体式総合拠点の開発方針の決定	4
94			北九州エアターミナル株式会社の健全な運営による空港の発展	4
95			空港の稼ぐ力の強化	4
96		C	ひびき灘開発の事業のあり方の検討について	1
97			施設老朽化に対する維持管理対応及び利用転換・民間投資活用	1
98			砂津地区の未利用地等を活用した賑わい空間の創出	1
99	門司区役所	B	若者、地域、民間の連携推進による活性化	1
100			地域のブランド力強化に向けた取組み	1
101			地域コミュニティの活性化	2
102		C	今後のまちづくりの長期的な最終目標に向かっていく小目標の設定	1
103	小倉北区役所	B	地域の実情に応じた地域づくりへのサポート	3
104			地域における外国人との共生	3

(参考)各局区X方針のB・Cレベルの課題一覧(変革5段階による仕分け) 5/6

No.	局区名	課題領域	課題名	段階
105	小倉北区役所	B	小倉北区内の観光資源の掘り起こし・情報発信の強化、並びに区の垣根を超えた周遊観光の促進	5
106		C	小倉北区役所庁舎のあるべき姿の実現に向けたプランづくり	3
107	小倉南区役所		現役世代・子育て世代のニーズに合わせた柔軟な市民センターの運営(日曜開館の検討等)	2
108		B	地域特性に応じた新たな持続可能な地域コミュニティの形成	2
109			地域資源の活用と人材育成	4
110		C	区役所の一歩先の価値観を体現する「未来型区役所」のデザイン	2
111	若松区役所	B	持続可能な「地域ケア研究会」の取組	2
112		C	若松北海岸の観光地化	2
113			市民センターの運営の在り方の検討・見直し	3
114	八幡東区役所	B	新たな地域の担い手を創出	4
115		C	新たな地域の仕組みづくり	2
116			市民センターの運営体制のあり方の検討・見直し	2
117	八幡西区役所	B	あらゆる「区民のこえ」の可視化	5
118		C	地域とつながる安心な暮らしづくり	3
119	戸畠区役所		戸畠区の賑わいづくりの担い手ネットワーク構築	2
120		B	気軽にあつまり交流できる場としての区役所づくり	4
121			まちの魅力の効果的な発信	4
122			「歩いて楽しいウォーカブルなまち」としての回遊性向上と賑いの創出	5
123		C	中本町地区などにおける土地利用にかかる検討と市街地再開発の気運醸成	1
124	消防局		持続可能な消防体制の確立	2
125		B	増加を続ける救急需要の対策	5
126			消防業務のDX推進	5
127		C	木造建築物が密集する地域に対する火災予防対策	2
128			小倉南区内の消防体制の再整備	3
129	上下水道局	B	株式会社北九州ウォーターサービスとの連携強化	3
130		C	将来にわたる上下水道事業の健全経営やサービス水準維持の実現(経営環境の変化への対応)	2

(参考)各局区X方針のB・Cレベルの課題一覧(変革5段階による仕分け) 6/6

No.	局区名	課題領域	課題名	段階
131	交通局	B	持続可能な交通事業の構築	4
132		C	施設・車両の老朽化対応	2
133	公営競技局	B	ファンや地域に愛されるレース場づくり	4
134		C	社会的要因等(国の経済の衰退、大規模災害発生時)への対応	4
135	教育委員会	B	学校体育館への空調整備に検討	2
136			教職員の負担軽減に向けた業務の見直しと環境整備	3
137			学びの多様化学校開校による不登校対策の更なる充実	3
138			図書館における施設の老朽化・維持管理コストの増大	3
139			小規模校特別転入学制度の見直し	4
140		C	新たな時代の教育デザインの構築	1
141	行政委員会事務局	B	選挙事務(投票所)の人員配置の見直し(各局区の所属割当てへ変更)	3
142			将来の市政を担う人材の確保ができる採用試験の見直し	4
143		C	若者世代(20代)の投票率の向上	3